

委員の意見が連携・協働の原動力 ～学校部会が行われています～

7月から今月にかけて、学校部会が一部の小・中学校で開催されています。今回の部会では、授業の見学や1学期の「まなびフェスト」取組状況についての説明、2学期に予定されている活動についての検討などが行われました。このうち9月13日に行われた第2回綾織小学校部会（鈴木主計部会長）では、1学期「まなびフェスト」取組アンケートについて説明が行われた後、これまでに地域との協力のもとで行われた、あいさつ運動や学校農園の支援の取組について協議が行われました。「きちんと挨拶をしてまた来てもらおうと思った」「手伝ってもらって助かる」など、子どもたちからの感想が紹介された後、委員からは「参加した地域の方も『楽しかった』と話している。学校に協力したいという地域の方はたくさんいるので、誘い方を考えていく必要がある」などの意見が出されました。一方で、地域に対してコミュニティ・スクールをどう周知していくか、地域教育協議会をはじめとした団体との連携が課題との意見も出されました。委員の意見が、学校と地域の連携・協働の推進に欠かせない原動力であるということが、会議の状況やその後の取組の様子からも明らかになっています。



綾織小学校部会の様子。和やかな雰囲気のもと、たくさん意見が出されました。

「つなぐ」ための「共有する・考える場」として～「エリアコーディネーター連絡会議」を開催～

コミュニティ・スクールの導入に合わせて、市教育委員会では「エリアコーディネーター」を中学校区に各1名配置しています。エリアコーディネーターは、学校の課題等を把握したうえで、「学校と地域をつなぐ」役割を担っており、月1回「連絡会議」を開催し、それぞれの活動や課題を共有するとともに、よりよい支援に向けた検討を行っています。10月4日に行われた第6回連絡会議では、生涯学習スポーツ課長と学校教育課長も交え、9月に実施したコーディネート業務の共有と、上半期の活動の振り返りが行われました。エリアコーディネーターからは、「半年が経過し、窓口となる先生と話すことができるようになってきた」「学校と地域の色がある。みんな同じように取り組むのではなく、特色を踏まえてコーディネートする必要があることを理解した」「取組が進む中で、委員の皆さんの声を活かしながら行いたい、学校部会や協議会の年度当初の計画が優先され、集まる機会がないことが悩みのひとつである」などの意見が寄せられました。今後も、共有された情報や意見を基に、連携・協働に向けた支援や活動に取り組んでいきます。



10月に開催されたエリアコーディネーター連絡会議の様子

学校運営協議会・部会の協議から 取組紹介①

青笹地区による『こども本の森遠野』を活用した読書推進の取組



本の森で本に触れる子どもたちと見守りに協力する地域の方

青笹小学校部会では、第1回学校部会において「これまで学校と地域と一緒に取り組んできた『読書推進』を今年度も取り組む」ことが確認されました。協議では「従来の取組に加え、昨年度オープンした『こども本の森 遠野』を活かした取組をしたい」「メディアとの付き合い方が課題とされているが、メディアと違う楽しみを見つけてもらうことが必要」等との意見が出されたことを受けて、青笹児童館や青笹町地域教育協議会、市の担当課等が連携し、8月8日、こども本の森 遠野を会場に、本に触れてもらう取組が行われました。この日は13名の児童が参加。本の森を自由に探索しながら、本を読んだり、スタッフによる読み聞かせに耳を傾けていました。また、子どもの見守りのために参加いただいた部会委員や地域教育協議会の委員からは「子どもたちの笑顔を見ることができ、見守りの負担も少ないので、次回はほかの人にも声掛けをしたい」との感想をいただきました。この取組は、11月にも行われる予定ということです。